

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

松ヶ崎城保存も新たな観点で

会長 青山 和平

松ヶ崎城跡は、松ヶ崎をとどめている数少ない所となつてしまいました。

先に行われた清掃兼植木観察会において、木漏れ日の中の下草の道を歩いていると、子供のころの松ヶ崎の小松山などがい出され、懐かしさがあふれてきました。

今年度は、「私青山が会長の任をとれ」とのことで1年間だけお世話になり

ます。立ち上げから一緒にやつてきた川上前会長、小柳前副会長、6年間お疲れ様でした。それから榎前事務局長もお疲れ様でした。今年度は、鈴木、浦久両副会長と、昨年来からの役員の皆様と共に、進めていきたいと思います。

さて、昨年柏市の文化財指定を受けた松ヶ崎城跡も、今年度は新たな出発の年となりました。ご存知のように、柏市文化財指定と緑地指定だけでは保存になりません。柏市で借りてもらい、併せて環境省の緑地保全法の適用を受けることが必要です。

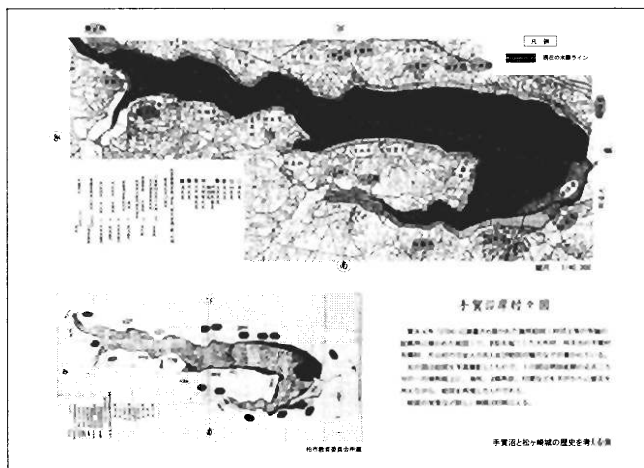


6月の城跡清掃。大きなバイクは皆で運んだ

今年度は、歴史の講演会などと共に、保存にも新たな観点で取り組んでいきたいと思つていきますので、よろしくお願いたします。

300年前の手賀沼をCGで再現 明治後期の正式地形図に重ねる

——希望者に資料配布予定——



資料1枚目。江戸期と明治期の手賀沼を重ね合わせた

手賀沼は、江戸時代以後は、干拓と水害でその姿を変えてきた。300年前の手賀沼の水面はどうだったか。柏市教育委員会所蔵の宝永元年（一七〇四）の手賀沼絵図がそれに答えてくれた。

この絵図は漁業権の争論のためのもので、論所絵図の形式をとつていて、かなり正確に測量されている。それを山田宏さんがコンピュータを使って、明治39年発行の正式2万分の1地形図に重ねた。もちろん、宝永図は近代の測量技術とは精度が異なるので、そのまま重ねることはできない。しかし宝永図の外周部となる地境が、大部分沼を

巡る道として残されているのを見出し、重ね合わせを実現することができた。

これによって、18世紀、20世紀、21世紀、各世紀初頭の手賀沼の姿を見ることが出来る。18世紀初頭といえば、利根川を東遷して50年、関ヶ原から100年、中世の手賀沼を想像するには格好の史料である。

中世、手賀沼はいわゆる香取の海の一部であったという説は、果たして成り立つであろうか。

企画 中津川督章
制作 山田 宏
写真撮影 菅谷孝之

*同資料（A3カラー1枚＋A3白黒2枚）は会員には無料、会員外の方には実費200円で配布します。イベント（地域史を語る会または講演会など）で用意していますので、ご希望の方は声をおかけください。（会より）

城址の清掃と植物観察会を実施

下を向いて探そう！ 多数の植物を確認
バイクなど大型ごみを一掃！

6月19日に城址の清掃と植物観察会を行なった。清掃は不法投棄の大型バイクを始め、缶、ペットボトルなど飲料、雑誌などの紙類などが捨てられており、12人が手分けをして、中腹の不動尊跡から城郭跡までを約1時間かけて一掃した。

その後、植物愛好家・石原篤幸さんをガイドに、城跡内に自生する植

清掃、みんなで汗を流し、ごみを拾った。
集めたごみは市に依頼し、回収してもらった



ヤブコウジの実

物観察会を行なった。花を観察するには、春の花が終わわり、夏の花には早く、ドクダミが群生する状況ではあったが、葉や実を見て植物が限定できる

石原さんのおかげで、この地域でも希少となっている在来植物が観察できた。

それらが乱獲されないような工夫と、繁殖力の強いドクダミ、また、鳥類などが種を運んで来たと思われる帰化植物を、今後どうするのかなど、問題が提起さ

分かりやすく熱心に説明をする石原さん



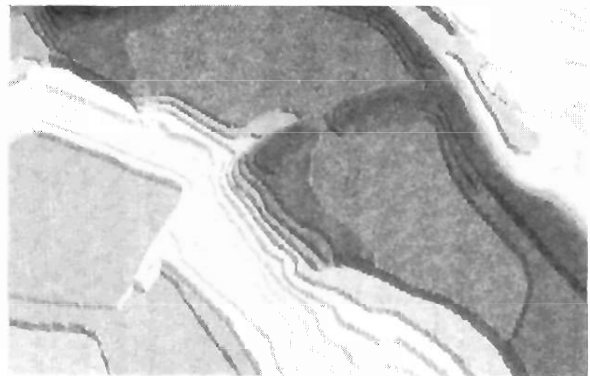
れた。

参加した会員からも好評で「分かりやすかった」「楽しかった」などの意見が聞かれた。石原さんは「地元にある里山のよさは、周年観察ができること。季節ごとに調査できれば、植物の住み分け状態が把握できる」と話している。*植物観察会で撮影した写真は、HPにアップする予定です。お楽しみに。(伊江有可里)

秋の清掃を11月6日(日)午前10時〜12時に行いますので、ご協力をぜひ。掃除用具や軍手は各自。集合は松ヶ崎不動尊跡。雨天中止

コンピューター・グラフィックスで5カ所の城跡

会ホームページに近日UP!



増尾城跡。ホームページの城跡CGはカラー

グレースケールの高度データ図を作り、地形表示ソフト(GR)で画像化します。微地



根戸城跡



松ヶ崎城跡

形をわかりやすく表現するため、高さ方向を2倍に強調してあります。等高線だけで表された測量図は、見慣れていないと理解しづらいもの。CGではいろいろな角度から見られるため、谷津が台地に入り込んだ地形、城が築かれた台地の形状など、「なぜこの場所に中世の城が築かれたのか」を感じることが出来る。このCGを持つて城跡を歩いてもらい、理解の助けになればと山田さん

一部の城跡をプリントアウトし、講演会などでパネル展示する計画もある

「馬場小室山遺跡に学ぶ」

市民フォーラム

10月1～2日
見沼をのぞんだ縄文むら

「馬場小室山遺跡の重要性を知っていただくために、遺跡研究会が発足しました」という電子メールが、会あてに届いたのは昨年12月。さいたま市東南郊に位置する「馬場小室山(ばんばおむろやま)遺跡」は、発掘成果から「縄文文化の正倉院」と呼ばれ、また近年注目を集め

相続で物納され、競売にかけられた。業者が買い取り、住宅開発となったが、学術ボランティアの協力を得て、ワークショップ、セミナー、クリーンアップ、セミナー、市民主導で次々と開催された。当会では有志で、遺跡見学・土器の採集・整理などに参加した。今年3月、多くの人の活動が実り、同遺跡東側の市有地部分がさいたま市指定文化財に、それを記念し、実行委員会が発足し、10月2日に市民フォーラムが開

催される(1日はプレ・フォーラム)。「行政と市民、学術ボランティアがハートナーシップで協力して同遺跡の重要性を広く伝え、同時に保全と活用を含めた街づくり」、歴史的な文化遺産が核となる取り組みの方向性を提案する「目的だ」。

何回かのワークショップに参加して、関東地域の縄文時代のムラの面白さに触れた。柏市でも縄文前・中期の大規模集落が、また環状盛り土遺構は県内では流山市・佐倉市でも確認されている。フォーラムは予約不要なので、誰でも問い合わせたでも、せは4面末尾の浦久まで。

企画展示会「かしの昔」(柏市教育委員会主催)
6月30日～7月10日
柏市・沼南町の合併記念として、沼南公民館多目的ホールで開催
旧石器時代の黒曜石、林台遺跡の子供を葬ったろう深鉢形土器、戸張一番割遺跡の銅鏡、北ノ作古墳の赤く塗られ土器、2つの奈良三彩：各時代の特徴ある遺物が並んだ。日頃は土手の部分だけ見える野馬土手の堀底写真も興味深い。一柏市には常設の博物館や資料室がないが、今回の展示会はとてもよくわかった。今後いろいろなテーマの企画を期待している。と会員のお一人

大松遺跡(柏市小青田)現地説明会(千葉県文化財センター主催) 5月28日
3万4千平方メートルの広さを持つ同遺跡は、平成13年度から調査が行われていた。特徴は、縄文中期の大規模な環状集落の存在と、やはり大規模な縄文前期の集落が隣り合う形で見つかったこと。前期の集落は、拡がりを見せ、発掘結果の分析が進めば、生活の拠点をどのように移していったかが解明される可能性もあるという。

今回の見学会は、前期の住居跡が中心だったが、中期の火焰型土器なども展示され、非常に多くの人が見学していた。

【そのほか】
柏市追花遺跡見学会(柏市教育委員会・山武考古学研究所主催) 5月29日

「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム

-見沼をのぞんだ縄文むら-

馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム実行委員会主催

■■■馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム■■■

10月2日(日)10時～17時

後援:さいたま市、さいたま市教育委員会、日本考古学協会
あいさつ 実行委員長 大田克(東京大学名誉教授)

- (1)【見沼文化の形成】招待講演『「みむろ物語」について』他
- (2)【現代の見沼文化】馬場小室山遺跡の映像とアートの世界
- (3)【パネル・ディスカッション】

「縄文時代研究からみた馬場小室山遺跡の重要性」

コーディネータ:阿部芳郎(明治大学教授)

パネリスト:江原英(財 ちぎ生涯学習文化財団)他

(4) 実行委員会からの提案

*参加費無料、先着150名、申し込み不要

■■■考古学研究者によるプレ・フォーラム■■■

10月1日(土)10時～17時

(1) 趣旨説明:『「発見」から「検証」へ』

コーディネータ:阿部芳郎

(2) 研究発表

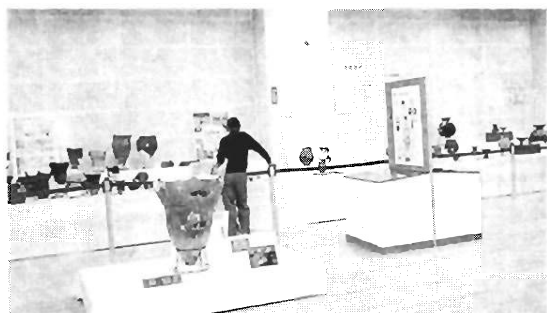
- 1、『寺野東遺跡の形成と「環状盛土遺構」』江原英
- 2、『中央窪地型集落と下総台地の「盛土遺構」』堀越正行
- 3、『大宮台地の遺跡群と「盛土遺構」』金箱文夫
- 4、『遺丘集落の類型化と遺跡群』阿部芳郎
- 5、『盛土遺構研究と馬場小室山遺跡』鈴木正博

*参加費無料(資料代のみ実費)、4面末尾「浦久」まで申し込み

会場:両日とも「プラザイースト」多目的ルーム

さいたま市緑区中尾1440-8 TEL048-875-9933

JR浦和駅から、またはJR東浦和駅から バス



展示会「かしの昔」-沼南公民館多目的ホール

10月16日に講演会開催

「北柏駅周辺遺跡を巡って」 「中馬場遺跡の 発掘調査からみえる中世世界」

JR北柏駅に隣接する中馬場遺跡の、中世に関する講演会を10月16日、柏駅東口の野村ホールで開催する。当会主催、柏市教育委員会後援。

調査で、地下式坑・井戸跡・掘立柱建物跡などの遺構と、土器・陶磁器類の遺物がとりわけ多く出土した。それらから、同遺跡が「中世には、交易や商業の拠点『宿(しゆく)』ではなかったか」という論文も平成15年に発表された。

今回はその論文の執筆者、房総中近世考古学研究会の築瀬裕一さんと、柏市教育委員会文化財担当の井上文男さんを招く。内容は講演「中馬場遺跡の発掘調査からみえる中世世界」と、「中馬場遺跡の発掘調査報告」。

遺跡の特徴や当時の集落の姿はどのようなものか。古代の大規模遺跡としては有名だったが、近年の考古学や「都市と物流の研究」の成果から見えてくる中世も、非常に興味深いという北柏駅周辺。柏の歴史の新しい一面になるはずだ。

なお、柏市教育委員会との協力で、出土遺物の一部を会場で展示。詳細は次の通り。

▽10月16日(日)午後1時～3時半▽柏駅東口みずほ銀行柏支店5F野村ホール▽資料代500円▽予約不要▽先着100人▽問い合わせ先 Tel 090・2523・6113 青山さん

地域史を語る会

昨年2月に始まった「語る会」もすでに15回。7月から原則的には

アミューゼ柏で、時間は午後0時30分～3時に変わったので、ご注意を。ただし10月は、2日の埼玉県さいたま市で開催される「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」見沼をのぞんだ縄文むら(詳細は3面)、16日の当会の講演会(上記)に有志で参加するため、また11月も外部見学のため例会はなし。

おいしい料理を 食べ歩きましょう

女性会員有志で始まった「食べ歩きましょう」。フレンチ、そば会席、なまざ・・・、いろいろ味わい今回は? 9～10月の平日昼間のランチを予定。詳細は松平さんまで。 Tel 04・7133・6438

活動記録

2005年
4～9月

「地域史を語る会」11回

4月10日

テーマ「宝永元年の手賀沼絵図を現在の地図に重ねて見ると」300年前の

手賀沼 (柏駅前通り商店街会議室)

平成17年度総会

4月24日

出席17人。(柏駅前通り商店街会議室)

「地域史を語る会」12回

5月15日

テーマ「ものさしになる土器と弥生土器」(柏駅前通り商店街会議室)

「地域史を語る会」13回

6月5日

テーマ「ものさしになる土器と弥生土器II」(柏駅前通り商店街会議室)

「地域史を語る会」14回

7月3日

テーマ「船橋・八千代の中世城郭」(アミューゼ柏)

松ヶ崎城清掃&植物観察会

6月19日

講師 石原篤幸さん。詳細は2面に掲載参加12人。

「地域史を語る会」15回

9月4日

フリートーク(アミューゼ柏)

会報編集・作成

浦久淳子 Tel・ファクス

04・7155・2351

会費納入のお願い & 入会のご案内

【会員の皆様へ】今年度の年会費も2000円。下記振込先までよろしくお願ひいたします。

▽会費お問い合わせ 松平信子
Tel・fax 04-7133-6438

【会員外の皆様へ】当会は、地域の歴史や自然を楽しもうと活動している、市民有志の会です。入会いただくと会報やイベントのお知らせを郵送、また会員専用のメーリングリストも開設しています。一緒に活動しませんか。

お名前、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、メールアドレス(メーリングリスト参加希望の方のみ)をハガキ・ファックス・お電話のいずれかで、事務局までお知らせ下さい。

【事務局】(ご連絡はどちらかに)

▽北絃子 〒277-0835
柏市松ヶ崎415-5、1-206
Tel・Fax 04・7131・8879

▽浦久淳子 〒270-0103
流山市美原3-70-53
Tel・Fax 04・7155・2351

【会費振込み先】千葉銀行柏支店(店NO-008)普通預金3461475(手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会 伊江有可里)

【会計】松平信子 Tel・fax 04・7133・6438

【ホームページからのお申し込みも可】
当会ホームページURL

<http://www.matsugasakijo.org/>